

令和5年度 園評価書

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
自分が好き みんなが好き こども園が好き	つたえる つながる ひびきあう	安心して自分の思いを仕草や言葉など自分なりの方法で表現している	子どもが安心できるあたたかいことばげや、表情からの読みとりなどがけている。十分に思いを出せない子もいるが、保育者が一人ひとりを十分理解し、その子なりの表現を受けとめられるようにしている。	A	A	・“とととき棚”のネーミングが可愛くてとっても良い。とととき棚が子ども達の思いをつなげるものになっている	やさしい言葉掛け、場に応じた声の大きさなど、保育者それぞれが意識していく
		「またやりたい」という思いが表現できるような環境作りが行われている	「もっとやりたい」「明日もやりたい」思いがつながるように、遊びやおもちゃなどの片付け方を工夫したり、とととき棚を作り、大切な物を残しておくなど、思いを大事にしていた。すぐに遊び出せる環境など週1回の会議で職員が共有している。	B	B	・自分の思いでやりたいことを考えて自主的に行動し取り組んでいるところが良い	幼児と乳児との遊びの繋がり、玩具の出し方片付け方など今後も考え、お互いの遊びが、楽しい、やってみたいと思える環境作りを工夫していく
		保育者や友だちと関わりながら、好きな遊びを楽しむ	一人一人に年齢や発達に合ったあそび、好きな物、好きな人がいて楽しむ姿がある。子どもそれぞれの個性をとらえ、保育者も関わり一緒に楽しんでいる。	A	A	・喜んで楽しみにして登園することが出来る園である様子がうかがえる	クラス全体での外遊びや室内遊びが基本となるが、今やりたいことも時には大切にしながら、クラスにとらわれず興味のあることをそれぞれに行える時間を作っていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目						
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や経験などの違いを十分に把握理解し、それに応じた援助や言葉かけを行っている	個々の発達や経験、性格等を把握したうえで、その子に合った関わりを意識していった。会議等で共有し職員全体で同じ関わりができるようにしていった。	B	B	・年齢や発達の違い、それぞれの性格を、当たり前認めることが、園児の時に養われているようである	今後も職員間で情報共有し、一人一人に合った丁寧な関わりをしていく。また子どもへの関わりについて悩みを相談し話し合える機会も作り、職員全体で子ども一人一人を見守っていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	在園時間の違う子どもに配慮し、安心して園生活が過ごせるように、生活の流れを作り、遊びの環境を工夫している	早番、遅番保育で広い部屋を使用したり、歳児で分かれたりしながら、一人一人が穏やかに過ごしている。伝達や共有も確実に行い、定期的に玩具の見直しや購入の検討も行った。	B	B	・小学校では主体的に学び、粘り強く取り組むことや自己調整すること、失敗したらどうしたらいいかを学んでいる。小さいうちからやっていると良い。こだわりの持ってやっていると子になって欲しい	今後も保護者、保育者間で子どもの体調等の伝達や共有をし、早番遅番保育時間の玩具の見直しを行う。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども達が思い切り遊び、楽しさが感じられるような園庭の使い方やとととき棚の活用方法を考え、環境づくりをしている	園庭の赤土山を改良し、遊びが広がっていくような工夫をした。子どもの遊びの様子から環境作りをし、あえて片付けないでとっておくことで子どもの遊びが広がった。週1回のミニ会議で園庭の使い方を全学年で共有している。とととき棚の活用方法が課題である。	B	B	・子育てをしていて、年齢に対してのしつけや子どもへの声かけなど、どこまで言っているのかと思うときがあるので、先生たちの表情や声掛けを参考にしている	とととき棚の活用がとっておくだけにならないように、前日の遊びがつながるようとおき方の工夫や職員も子どもと一緒に遊ぶなど働きかけていく。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	避難訓練や不審者訓練、交通安全指導、ヒヤリハット対策を通して、子どもや職員が危険に気づき行動する力、対応する力を身につける	避難訓練は消防、不審者訓練は警察に訓練の様子を指導してもらい、保育者や子どもの危機管理に対する意識を高まってきた。突然の大きな震災に備し、定期的に避難訓練や防災倉庫の確認、予告なしの訓練の機会を増やしていく必要がある。ヒヤリハットもすぐに園内で周知し再発防止に努めている。	B	A		避難訓練、防災倉庫は3ヶ月に1回点検・チェックするようにする。生活用水の確保をし、毎月の避難訓練の日に水の交換を行っていく。避難経路については、年度初めに全体で共有し、安全な避難ができるようにしていく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	歯磨き指導、手洗い教室等を通して子どもが自分の身体や健康管理に興味をもち、意識できるようにする	手洗い教室を近隣の小学校の養護教諭の先生に依頼したことで、手洗いへの意味意識が高まった。また写真入りのボードやおたよりで様子を伝え、家庭にも発信できた。ただ、毎日の習慣で雑になっている姿もあるため、丁寧に見守るようにしていきたい。	B	A	・給食のサンプルはよく見ている子どもも「これたべたよ」などと話したり、サンプルを見てスーパーに買いに行こうと言われ、行ったこともあった	外部講師への依頼を増やし、自分の健康について、さらに意識を高めていけるようにする。(手洗い・睡眠・歯みがきなど)
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	加配担当会議を行うとともに、全職員で情報を共有し、一人ひとりに合った支援を考え、園全体で支援していく	定期的にバンド会議を実施した。乳児やフリー保育者も参加し、一人ひとりに合わせた支援方法を考え、また、職員会議で情報を共有し、同じ支援ができるようにしている。	B	B	・手洗いやうがいも園できちんと教えてもらっているのでもっと上手に出来るようになった	支援を必要とする子どもの交流の会を設け、一人一人に合わせた支援や遊びができるようにしていく。園内研修で個のケースについて話し合い、園全体で支援できるようにしていく。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自らの分掌に責任を持ち、乳児・幼児で連携をとりながら園運営を進めていく	各々が自分の担当する分掌に責任を持ち、計画的に取り組んだ。分掌から園全体に共有し連携を取りながら協力して進めていくことが出来た。時期によっては行事が多く慌ただしいこともあった。	B	B	・子ども達が作ったものがとっておいてあると、我が子と比較するわけではないけれど、こういう遊びをするんだ、こういうものを作れるようになったんだと他の子の遊びも見られて良かった	今年度の反省をもとに分掌中心に、また分掌内でも役割を担えるように分担を決め、全体に声をかけ合い連携を取り計画的に進めていく。全職員が進み具合が分かるように“やることリスト”を作成し掲示する。
6 研修	(1)研修体制の充実	「またやりたい」「もっとこうしたい」という思いがつながるよう、朝の環境作りや子どもへの声掛けの方法を考え、実践する	朝の環境、片づけ方の工夫を意識したことで、子どもたちの「今日もコレ、やろう!」の姿が多く見られるようになった。週1回のわくわく会議で、職員同士の共有を計り、環境についてざっくりと話し合っている。	A	A		今後、子どもたちの「もっとこうしたい」「次はこうしよう」の気持ちにつなげていくために、遊んだあとのおき方の工夫と遊びの中での環境の再構成について取り組んでいく。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	SDG sに取り組み、保育の中に取り入れ、身近に感じられるようにしていく。ユニバーサルデザインを取り入れ子どもも大人も過ごしやすい環境づくりを行う	年に数回、パネル等を使い、SDG' sについて話す機会を作り、身近に感じられるようにした。また定期的にユニバーサルデザインを見直し、子どもたちが過ごしやすい環境づくりを意識している。	A	A	・健康管理(手洗い・歯みがき・食育)も習慣であるため、家庭と園との連携が取れているようで良い	普段から園内で取り組んでいるSDG' sを掲示板等で保護者に発信していく。ユニバーサルデザインがマンネリ化しないよう定期的に入れ替えていく。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	親子で給食や食事に関心を持てるように、食育活動の様子を写真やお便りで知らせていく	保育者と調理員で月1回、子どもたちが食に興味を持てるような話やクイズなどを行い、活動内容は掲示やおたよりで知らせるようにした。お迎え時には給食サンプルとレシピをみて親子で楽しそうに話す姿が見られた。	A	A		計画的にクッキングを行ったり、食育だよりにクッキングのレシピを載せたりして、保護者に積極的に発信していく。食育の日に行ったことも引き続き発信していく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の小学校や園との交流を計画的に行いながら、情報交換や連携を図っていく	コロナが落ちついてきて、小学校や近隣園との交流や公開授業参観などができた。交流の様子をボードなどで保護者にも発信できた。	A	A		今後も小学校や近隣園と情報交換や交流を積極的に進めていく。また近隣園との交流は近隣の公園で遊ぶ等を年間計画に入れていく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	おしゃべりサロンやS型デイサービス訪問で地域の方と触れ合いながら、こども園の良さを発信していく	毎月おしゃべりサロンを開催し、地域の未就園児と保護者への子育て支援の場になった。園児がおしゃべりサロンで毎月季節の歌を歌うことで交流することもできた。1月よりデイサービスや自治会のお年寄りとの交流も予定している	B	B		おしゃべりサロンの掲示やチラシの配布などを通して地域に知らせていく。デイサービス訪問等は年間計画を立てて交流していく。